

地域住民、専門家、行政が一体となって取り組む復興の現在の真実がここに在る!

第1巻 岩手県 釜石市／大槌町 見えてきた復興のすがた～その課題と展望～ [32分]

行政との間で防潮堤を建設しないことで合意に至った釜石市花露辺地区。14.5メートルの防潮堤建設を決めた大槌町町方地区。隣接する釜石市と大槌町の中心市街地と集落に、安心・安全なまちづくりの模索を見るときともに、商業・水産業の再生、都市機能の集約化、盛土による自然環境の変化、土地区画整理事業、災害の伝承など、復興まちづくりにおける多様な課題を包括的に検証します。



第2巻 宮城県 山元町 コンパクトシティをめざして～自治体主導による創造的復興～ [33分]

仙台平野の南端に位置する山元町は被災後、沿岸部は防災緩衝地の緑地にし、中央の平野部は大規模農地の整備を進め、市街地は二つの鉄道駅とともに安全な山側に集約化することを、復興まちづくりの基本としました。「コンパクトシティ構想」です。しかし、地域構造の大きな変動は住民生活にさまざまな影響を及ぼしています。克服すべき多くの課題を抱えながら市街地の再編を進める行政と住民の取り組みを追います。



第3巻 岩手県 大船渡市 自律する集落と町の広域復興～その組み立てと編集～ [32分]

中心市街地のJR大船渡駅周辺をはじめ、沿岸部集落に被害を受けた大船渡市。古くから公民館を単位とした地域自治が根つき、復興まちづくりにおいても被災の規模、条件など、地域の特性に応じた独自の計画が進められています。同時に中心市街地では復興に留まらない、将来を見据えたランドデザインづくりが行われています。住民自治と市行政への参画、その組み立てをご覧ください。



第4巻 宮城県 気仙沼市 内湾地区 ジョイントガバナンスは可能か～多様な主体の共創～ [33分]

気仙沼市は、三陸地方を代表する水産・漁港都市です。海と接し水産業関連事業所などが立地する魚町、市役所や病院など公共施設がある八日町、商店や飲食店が立ち並ぶ南町。三町が合同で「内湾地区復興まちづくり協議会」を設立し、防潮堤建設をまちづくりの中でどう位置づけるかを主要テーマとして、安全性や景観、地域文化など、復興の本質的な問題の議論を進め、「提言書」をまとめました。多様な主体がぶつかり合い、総意を導くプロセスを追います。



第5巻 岩手県 山田町 漁村文化の継承 [30分]

山田湾を取り囲み、祭と伝統芸能が盛んな山田町。町行政が駅前地区を津波復興拠点として商業の再建を計画する一方で、商機を求めて国道沿いに新たな商店街の形成を進める若手商店主らもいます。こうした、ふたつのエリアをいかにして結びつけるのか。祭と一体にある、山田湾への景観をどのように守るのか。この地に培われた漁村文化と伝統芸能を糧に、まちづくりを進める人びとの活動を描きます。



第6巻 宮城県 石巻市 まちづくり市民事業の連携 [35分]

宮城県第2の都市・石巻市は大津波が内陸部にまで達し、水産業や、中心市街地の商店、住宅、企業施設などに大な被害を与えました。それから2年半、人びとは、被災地を越えたネットワークを形成し、支援者や専門家と協働して、市民が主体的に繋がるまちづくりを進めています。コミュニティの再生、商業や産業の再建など、それぞれの問題と向きあいながら、石巻全体の復興を目指す模索とプロセスを三つの視点からレポートします。



第7巻 福島県 浪江町 夢を復興の力に～浪江町民の闘い～ [35分]

浪江町は、海岸に近い低地部が津波により壊滅的な被害を受けたうえ、福島第一原発事故により、全町民が全国各地と国外に分散して避難をするという異常な状況におかれています。そのような先の見えない中、さまざまな分野で活動する町民有志は「なみえ復興塾」を立ち上げ、たとえ復興に長い時間がかかっても、町再建の道筋を自らデザインし、離散した町民がそれを共有し、具体化する活動を進めています。望郷の思いと粘りつよい再生の日々を描きます。



第8巻 証言篇 そのとき何を考えたかーそして今 [34分]

震災直後、厳しい状況の現場に入ったまちづくりの専門家は、そこで何をなし、いま何を考えているのか？ その証言から復興の次のステップを探ります。大西 隆さん（日本学術会議会長／東京大学名誉教授）、中井 裕さん（東京大学大学院工学系研究科教授）、岸井隆幸さん（日本大学理工学部土木工学科教授）、北原啓司さん（弘前大学大学院地域社会研究科教授）、真野洋介さん（東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授）、丹波史紀さん（福島大学行政政策学類教授）。



東日本大震災 復興まちづくりの現在 2013年秋

[全8巻]



監修者のことば

佐藤 滋

早稲田大学理工学術院教授
都市・地域研究所所長
放送大学各員教授



東日本大震災から3年以上を経過し、復興まちづくりは様々な課題を抱えながらも少しずつ各地で進みつつあります。ここでは、目指す将来ビジョン、地元での体制、専門家の関わりなどはさまざまですが、復興への道筋も地域ごとに多様な方向が見えてきています。多くの困難を抱えながらも、それぞれの地域にある潜在力を生かした努力が積み重ねられ、復興の姿というべきものが、がようやく見え始めています。

まちづくり、建築・土木、産業復興、行政・地方自治など、様々な分野の新たな試みを学び、あるいは学び合う豊富な内容が積み上げられているのです。この8巻のビデオ作品は、被災から2年半後の秋という時点を切り取り、8つの地域を取り上げ、多様な取り組みのなかから、それぞれの課題を考え、独自の方法を学び取る構成となっています。震災直後の模索から、地域での多様な取り組み、現れてきた成果を、地域で復興に関わる専門家・市民・行政の活動からご覧ください。

●監修者経歴

1973年3月 早稲田大学理工学部建築学科卒業、1980年3月工学博士（早稲田大学）。早稲田大学理工学部建築学科専任講師、同・助教授を経て1990年4月教授に就任。これまでに、日本建築学会会長、自治体学会代表運営委員等を歴任。1990年日本建築学会賞（論文）、都市住宅学会賞、2013年清水康雄賞受賞。近著等に、「まちづくり市民事業」（編著、学芸出版、2011年3月）、『東日本大震災からの復興まちづくり』（編著、大月書店、2011年12月）「協働復興まちづくりー阪神・淡路大震災の住民活動に学ぶ」（DVD全4巻、丸善出版、2012年）など多数。

推薦のことば

大西 隆

日本学術会議会長
豊橋技術科学大学長
元東日本復興構想会議委員



このDVD（全8巻）には、東日本大震災から2年半後、2013年秋の時点での被災各地の様相が提示されています。住民・専門家・行政が、それぞれの思いと理念とビジョンを抱きつつ、ときに対立し、融和し、さらなる到達点を目指して試行する「プロセス」がビビッドに捉えられています。被災各地が直面する課題や復興のプロセスは、当然のことですが画一的ではなく、多様です。そのことが、現地の暮らしの風景や、住民、行政首長、専門家へのインタビュー、さらには図表やCGをふくむ映像の力で表現されています。8つの市と町に取材し、復興に向けて取り組むそのプロセスに焦点を当てたこのドキュメンタリーを見ると、現場に入って製作に携った佐藤先生やスタッフの並々ならぬ熱意が伝わってきます。

このたび丸善出版株式会社から発売されたこのDVDが、大学や大学院での教材として役に立つばかりでなく、全国の自治体での防災減災、そして復興対策の一助と成り得る映像教材だと確信します。

●推薦者経歴

1975年3月 東京大学工学部卒業、1980年7月 同大学院修了、工学博士。長岡技術科学大学助教授、アジア工科大学院助教授、MIT 客員研究員等を経て、1988年東京大学大学院工学系研究科助教授、その後同教授、名誉教授。2014年4月から豊橋技術科学大学長。近著等に、「東日本大震災復興への提言ー持続可能な経済社会の構築」（共編著、東大出版会、2011年）、「東日本大震災ー復興まちづくり最前線」（共編著、学芸出版社、2013年）など多数。



東日本大震災 復興まちづくりの現在 2013年秋 [全8巻]

2011年3月11日、仙台市の東方沖70kmで発生したマグニチュード9.0の大地震は、未曾有の大災害を引き起こしました。東日本大震災です。そして、2013年秋。

さまざまな課題を抱えながら歩んできた被災地の復興を、この2年半の時点で切り取り、8市町の現在を浮き彫りにしてゆきます。

岩手県 釜石市／大槌町、山田町、大船渡市
宮城県 気仙沼市、山元町、石巻市
福島県 浪江町

復興の基盤は、どのように多様に出来上がっているのか。

復興への共治（Local Governance）がどう組み立てられてきたのか。それが復興計画にどう反映しているのか。

各地で描かれた復興への道筋を、インタビューを交え、検証します。

DVD全8巻 各巻本体価格28,000円＋税 セット本体価格224,000円＋税

監修：佐藤滋 早稲田大学理工学術院 教授

制作協力：LLP まちづくりを記録する会

制作・著作：丸善出版株式会社

発行：丸善出版株式会社 映像メディア部

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6F

TEL 03-3512-3252 FAX 03-3512-3271

http://pub.maruzen.co.jp/

お問い合わせ・ご注文は下記までお願いします。